

## 営業の概況

### ごあいさつ



取締役頭取

平素は格別のお引き立てを賜り、誠にありがたく厚くお礼申し上げます。

ここに、第104期(2019年4月1日から2019年9月30日)の営業の概況と決算の状況につきましてご報告申し上げます。

### 金融経済環境

2020年3月期第2四半期連結累計期間(2019年4月1日から2019年9月30日まで)の国内経

済は、米中通商問題の影響から輸出が弱含み、生産も終盤には弱含みとなりましたが、個人消費の持ち直しが続き、雇用情勢も着実な改善が続いたことから、全体として緩やかに回復しました。

沖縄県経済は、観光が、終盤にかけて韓国人観光客の減少や台風の影響により入域観光客数の増勢ペースが弱まる場面があったものの、全体としては好調に推移しました。また、消費は特に9月に消費税増税前の駆け込みがみられるなど概ね好調を続け、建設も高水準な民間工事・公共工事により概ね好調に推移したことから、雇用情勢の着実な改善が続き、全体としては拡大を続けました。

### 営業の経過および成果

業容面では、当中間会計期間期末において貸出金は、住宅ローンを中心に好調に推移しましたが、地公体向け貸出や法人向けの工事運転資金貸出の減少により、前期末を4億25百万円下回る1兆7,202億19百万円となりました。預金等(譲渡性預金を含む)は個人預金が好調に推移したことから、前期末を446億83百万円上回る2兆2,432億97百万円となりました。有価証券は債券等の取得により

前期末を278億8百万円上回る3,098億78百万円となりました。

収益面では、経常収益は、外国為替売買益や有価証券利息配当金の減少があるものの国債等債券売却益や金融派生商品収益の増加等により前年同期を11億88百万円上回る217億77百万円となりました。

一方、経常費用は前年の予想損失率の算定方法の精緻化により増加した一般貸倒引当金繰入額の反動減があるものの、国債等債券償還損や株式等売却損の増加等により前年同期を15億75百万円上回る183億28百万円となりました。

この結果、経常利益は前年同期比を3億86百万円下回る34億48百万円、中間純利益は前年同期を4億90百万円下回る23億91百万円となりました。

### 当行が対処すべき課題

地元経済が好調に推移する一方で、日本銀行のマイナス金利政策の継続や県内外の金融機関による競争の激化により当行を取り巻く経営環境は厳しさを増しています。これらの課題解決に向け、中期経営計画「Customer Centric2017」の最終年度となる2019年度は、「顧客本位の収益モデルの実現」を経営目標に掲げ、当行グループ機能を活かしたソリューション提供によりお客様の課題解決に努めております。

具体的には、人材育成改革によりお客様に付加価値の高いサービスを提供できる人材を増やしていくとともに、営業店現場改革により業務効率化を徹底的に行い、お客様と向き合う時間を創出することで顧客本位の業務運営態勢を確立させ、法人ビジネス戦略、個人ビジネス戦略、カード戦略で掲げた各施策をスピーディーに実行に移し、「顧客本位の収益モデルの実現」の達成を目指します。

今後も引き続き、「地域から親しまれ、信頼され、地域社会の発展に寄与する銀行」という経営理念を達成すべく、地域の課題解決に努め、お客様が真に求める商品・サービスの提供に努めてまいります。

# 営業の概況

## 決算の概要(単体)

■ その他臨時損益(株式3勘定戻)の減少により減益。

(億円)

	2019年 9月期	前期比	2018年 9月期
経常収益	217	+12	205
業務粗利益 (a)	161	+2	159
経費 (b)	122	+2	120
実質業務純益 (c=a-b)	39	0	39
ネット与信コスト (d)	1	0	1
その他臨時損益 (e)	▲4	▲4	0
経常利益 (f=c-d+e)	34	▲4	38
中間純利益	23	▲5	28

\*前年同期比は表上計算

## 決算の概要(連結)

■ 連結ベースにおいても、銀行単体の影響で減益。

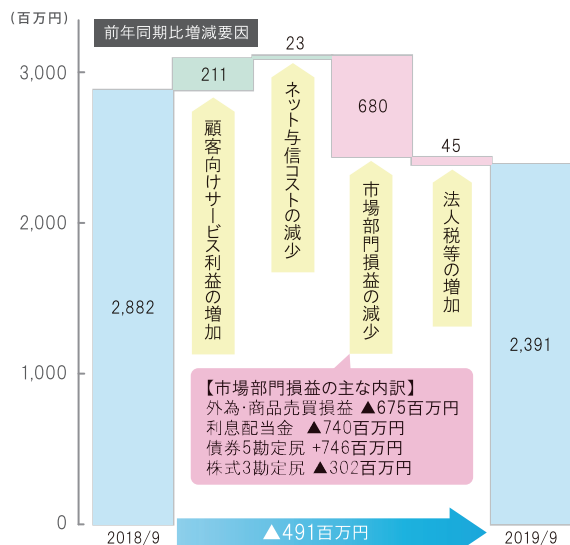
(億円)

	2019年 9月期	前期比	2018年 9月期
経常収益	317	+16	301
経常費用	274	+16	258
経常利益	42	▲1	43
親会社株主に帰属する 中間純利益	28	▲2	30

\*前年同期比は表上計算

## 中間純利益の増減要因(単体)

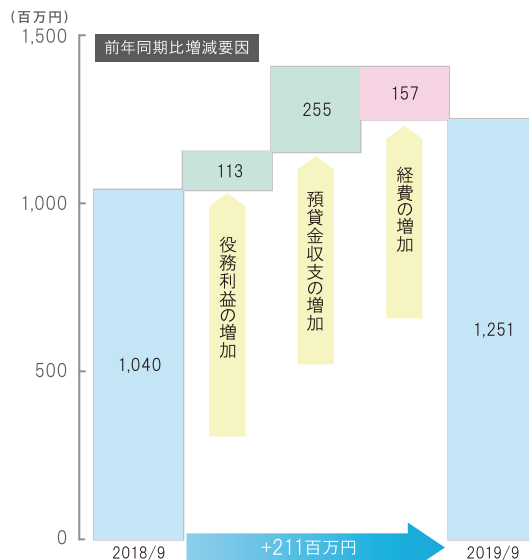
■ 顧客向けサービス利益は増加するも、市場部門損益の減少により中間純利益は減益。



\*法人税等の増加の項目は、その他損益の増減を含む。

## 顧客向けサービス利益(単体)

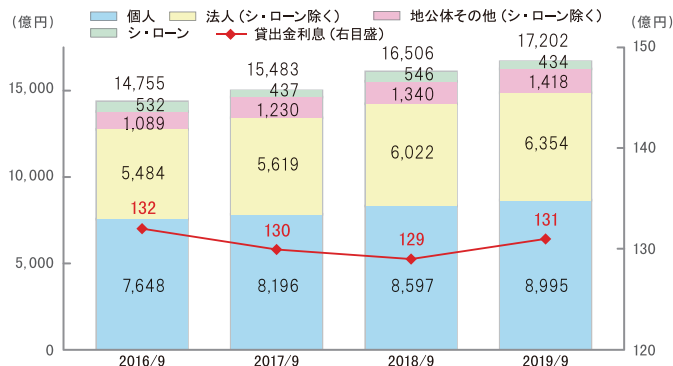
■ 役務利益および預貸金収支の増加により増益。



## 貸出金(単体)

■残高は順調に増加し、  
利息収入は増加に転じる。

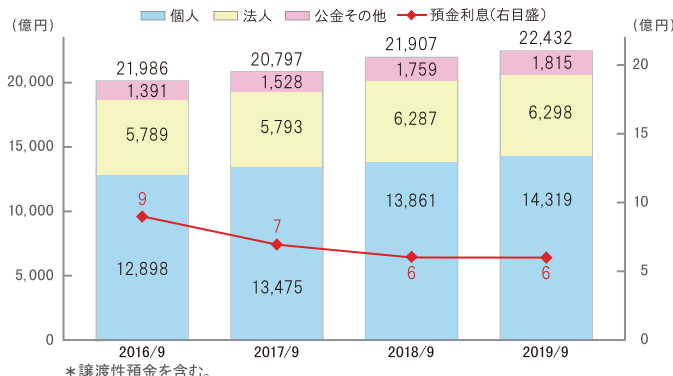
貸出金残高  
の推移



## 預金等(単体)

■個人預金・法人預金ともに増加。

預金等残高  
の推移

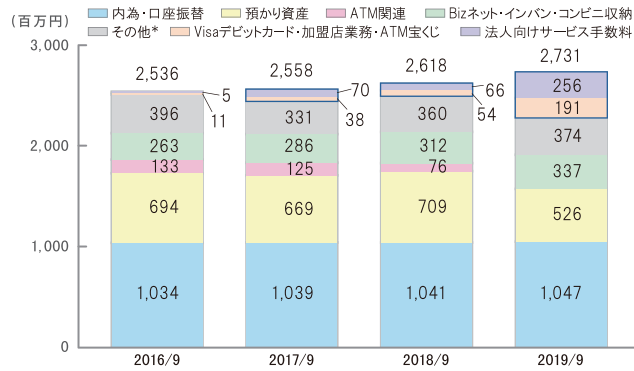


## 役務利益(単体)

■法人向けサービスやカード  
関連サービスの伸びにより  
役務利益は順調に増加。

役務利益  
の推移

( 団信保険料  
ローン保証料  
除く )



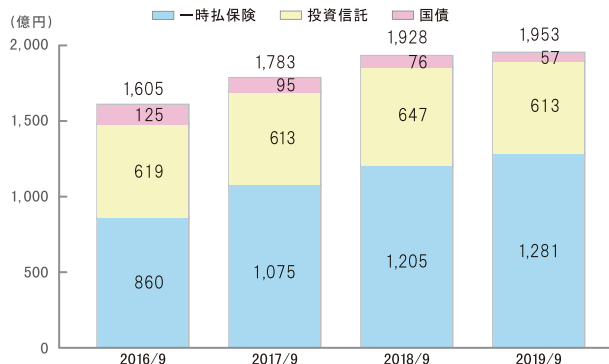
\*「その他」は、債務保証料、外為関連手数料、融資関連手数料、貸金庫、夜間金庫、代理  
貸付事務手数料等。なお、今期についてはATM関連(▲4百万円)も「その他」に含めている。

# 営業の概況

## 預かり資産(単体)

■ 一時払保険の伸びにより、残高は順調に増加。

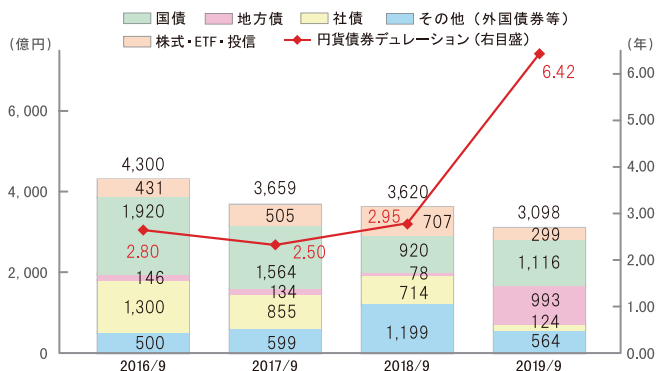
預かり資産  
残高の推移



## 有価証券(単体)

■ 地方債購入の影響によりデフレーションは長期化。

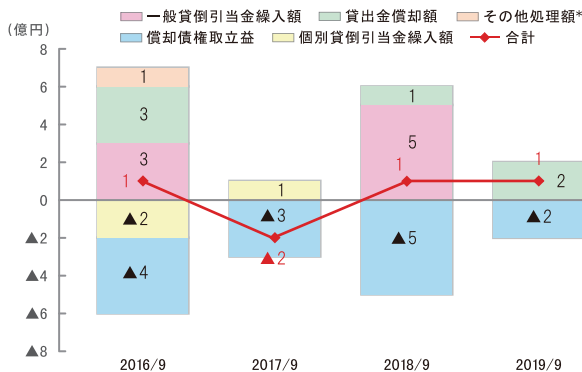
有価証券残高  
の推移



## 与信コスト(単体)

■ ネット与信コストは横ばい。

ネット与信  
コストの推移

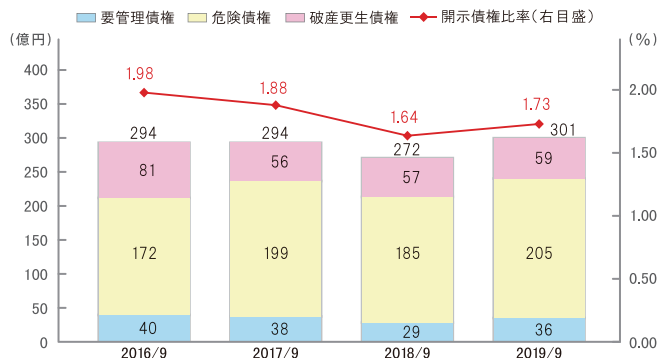


\*「其他処理額」は、県信用保証協会の保証に関する当行負担額等。

## 開示債権(単体)

■ 開示債権比率は6期ぶりに若干の上昇。

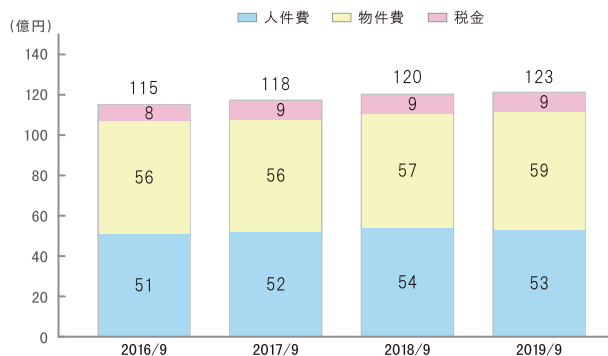
開示債権の推移



## 経費(単体)

■ 人員の減少により人件費は減少。業務効率化に向けた投資により物件費は増加。

経費の推移

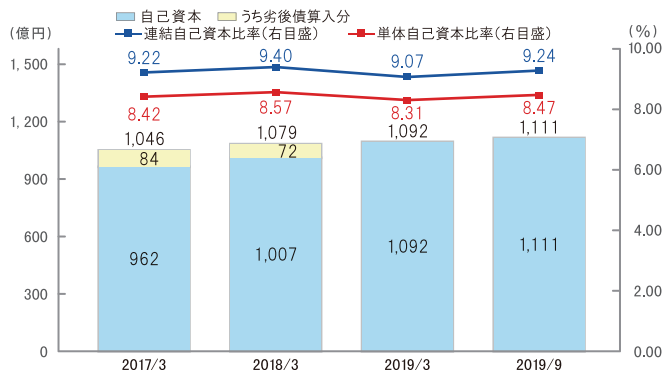


\*人件費には臨時処理分も含む。

## 自己資本比率(単体・連結)

■ 利益の積み上げにより、自己資本比率は上昇。

自己資本額と自己資本比率の推移



\* 2018/9に公募増資(56億円)を実施。2018/10に劣後債(120億円)を期限前償還。

## 営業の概況

### 2020年3月期業績の見通し

■ 預貸金収支の改善により、単体・連結ともに増益を予想(期初の予想から変更なし)。

#### 単体

(億円)

	2020年3月期		2019年3月期 実績
	予想	前期比	
経常収益	402	▲18	420
経常利益	80	+7	73
当期純利益	55	+2	53

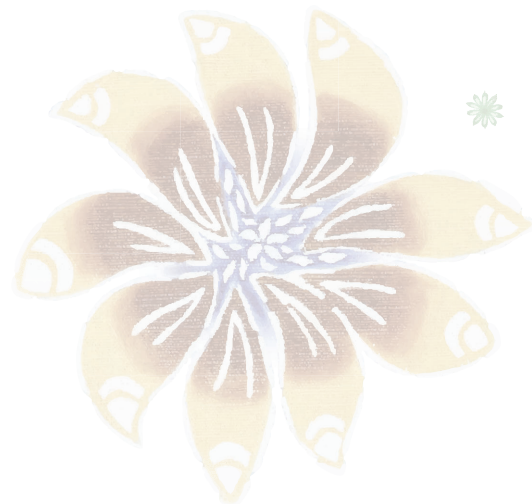
\* 前年同期比は表上計算

#### 連結

(億円)

	2020年3月期		2019年3月期 実績
	予想	前期比	
経常収益	602	▲19	621
経常利益	93	+7	86
親会社株主に帰属 する当期純利益	62	+1	61

\* 前年同期比は表上計算



## ■ 中小企業の経営の改善及び地域の活性化のための取り組み

当行は、お客様の企業ステージ(創業、成長・成熟、事業承継期など)に応じて外部専門家や外部機関等と連携し、本部・営業店が一体となってコンサルティング機能を発揮した中小企業の経営支援に積極的に取り組み、地域の活性化・発展に貢献してまいります。

